



MOTHERTH
MENAMBAKSHWA

変わる環境に追いつく気持ち

マザアス南柏



MOTHERTH
MENAMUKASHIWA

事例紹介

角川(仮名)さまの事例

81歳 男性 要介護2

長野で運送会社の社長、会長職を歴任
仕事の熱心、穏やかで優しい性格 (家庭は妻に任せっぱなし)

将来のことを考えて、住み慣れた実家からシニアマンションへ。

原因不明の咳が多発

➡ 間質性肺炎(肺そのものの機能が落ちてしまう病気)

見当識障害も見受けられるようになり、
話もかみ合わず、表情もとぼしく



MOTHERTH
MINAMIKASHIWA

入居前のご自宅の様子

シニアマンションで奥様と二人暮らし。

奥様のご主人の介護を行うが、自身も耳の聞こえが悪く、視力も弱っている。

奥様の最大の心配事

1. 食事

つつく程度で食事をやめてしまう。水分もほとんど取らない。

2. 転倒

自身の筋力衰えあり、もし主人が転倒したら支えられない。



24時間介護と医療対応できる施設を。
レスパイト入院をへてマザアス南柏へ入居



MOTHER'S HOME
MINAMIKASHIWA

マザアス南柏 入居直後

病院⇒自宅⇒病院⇒施設と、4ヶ月間で、急激な環境の変化
服薬拒否 立位困難 意思疎通難しい
1日の摂取量は1食分に満たない程度、水分500ml弱

食事

『こんな不味い食事は食べられない』
「食欲ないですか」の質問に『そう、ちょっとね』
食事介助を試みるも → 口を結んで拒否

服薬

『麻薬だろう。飲まないよ』と強く拒否
ご家族に服薬のポイントをうかがう → やっぱり飲めない。



過去の似た事例

およそ、2年前。今回の角川さまと同じような状況のご入居者さまをお迎えして。

食事拒否。水分もほとんどとらず。

ご家族と相談の上、好きな食べ物や飲み物を。いろいろと試すが。



状態は変わらず、脱水症状となり、点滴。(抜去予防の見守りも)



今度こそは、との決意だが、

事前情報を集めたくてもコロナ禍で、ご家族との面談は充分に行えず。

入居前カンファレンスでも、明るい見通しを持たずに。





MOTHERTH
MENAMUKASHIWA

スタッフ一丸となって

毎週のカンファレンスで下記の3点を実施しました

1. しばらく服薬を減らす。
粉薬は以前から飲めないとのことで、変更。
2. 食事に向かうよう積極的に介助に関わる。
気分の上下が激しく拒否も多い
気分に応じて、無理せず、すぐに人を変える、または時間を置く。
3. 些細なことでも情報収集。
御家族との連携を密にとる。
上手くいった対応、上手くいかなかった対応を共有。



MOTHERTH
MENAMIKASHIWA

エピソード1:お食事へ

②なんで食事なんてしなく
ちゃいけないんだ。

④俺の勝手だろ。うるさい。



①角川さんお食事の時間
ですから食堂の方へご案内
します。

③お食事を食べるときっと
元気がでますよ。

角川さまの価値観を受け入れて、さりげなく人を変える



MOTHER'S HOME
MENOMIKASHIMA

エピソード1:お食事へ

②あいつが勝手なことを言うんだ、わからん奴だ。

④お前もそう思うだろ。



①角川さん、どういたしました？

③そうですね。

角川さまの価値観を受け入れて、さりげなく人を変える



MOTHER'S HOME
MINAMIKASHIWA

エピソード1:お食事へ

②仕方ないな。行ってみるか。



①ところでやっぱりお食事は大事ですよね？

角川さまの価値観を受け入れて、さりげなく人を変える



MOTHERTH
MENAMIKASHIWA

エピソード2:服薬の様子

①食後のお薬ですよ

③胸が苦しいのが楽になるお薬なんですよ。



②これは麻薬なんだろ、お前らの手口だろ

④。。。。

角川さまのペース(こだわり)にあわせて、時間を合わせる

エピソード2:服薬の様子

① (錠剤を少量、手にのせてあげる)



② どうか。
(少し考えてから、
ゆっくり口に運ばれる)

角川さまのペース(こだわり)にあわせて、時間を合わせる

エピソード3:つながりはお手紙で

家にかえるんだ。



コロナ過でも、ご家族とのつながりを大切にする。



MOTHER'S HOME
MINAMIKASHIWA

エピソード3:つながりはお手紙で



お手紙をお送りします。

コロナ過でも、ご家族とのつながりを大切にする。



エピソード3:つながりはお手紙で

あいつは
こういうのが得意なんだ。



コロナ過でも、ご家族とのつながりを大切にする。



MOTHERTH
MENAMIKASHIWA

エピソード4:現状のお伝え

①この人たちを送るんだ。
車があるだろう。こんなやりとり
をしている間に諏訪に行けば
いいだけだ。



②諏訪は遠いですね。お出
かけになりたいんですね。で
もお車はお家にありまして。

現状を理解していただくよう、丁寧にお話する。

エピソード4:現状のお伝え

①それじゃ俺と喧嘩することだな。



②角川さんは病院からこの施設にきて体を治している最中なんです。

現状を理解していただくよう、丁寧にお話する。



MOTHERTH
MINAMIKASHIWA

エピソード4:現状のお伝え

よくわかってるな。そうい
えばそうだったな。



現状を理解していただくよう、丁寧にお話する。



MOTHERTH
MENAMIKASHIWA

徐々にリズムを取り戻す

居室にご本人の物を増やす

昔撮った夕焼けの富士山の写真

ご自分が写っている旅行の写真

お好きな車のカタログ

当初の情報では活気なく、自走はされないとのことでしたが・・・

タイヤを直接さわって車椅子を動かす動作が見られたため

自走車椅子に変更

トイレに行きたい時はご自身で発言されることなく、車椅子上で動きがあるため、

さりげなく誘導

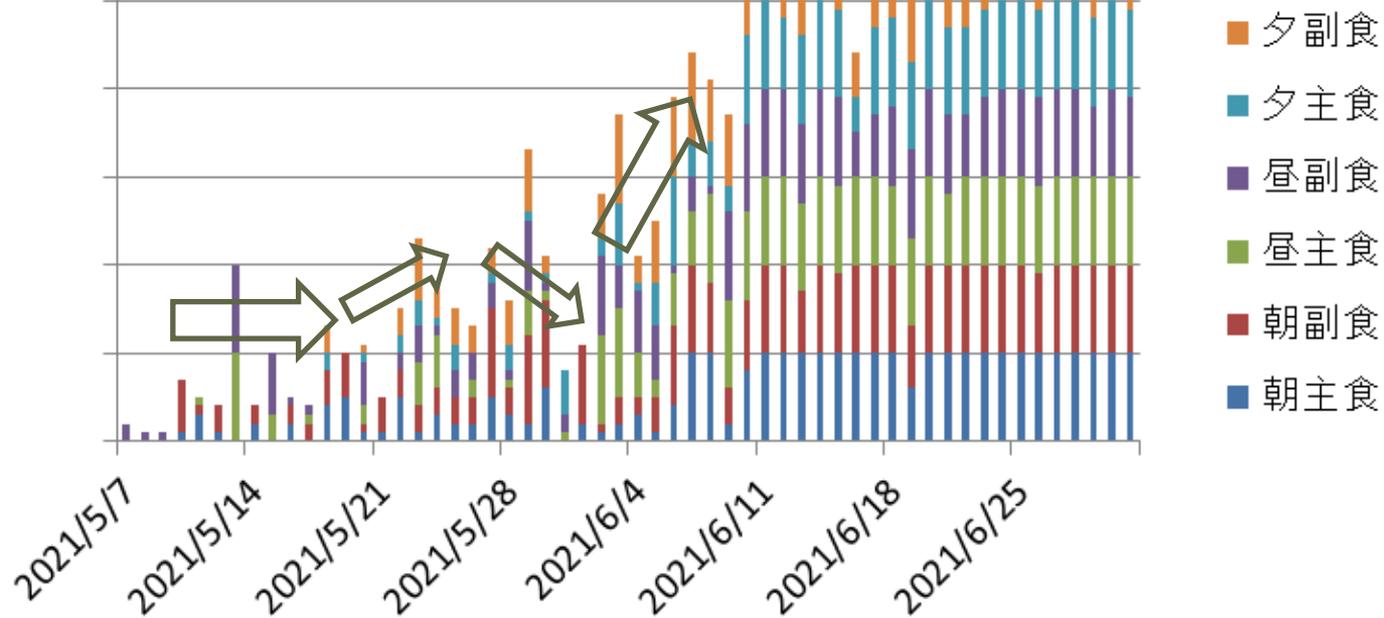
男性職員の方が安心感があるようなので、そのように情報を共有



MOTHERTH
MINAMIKASHIWA

食事量変化

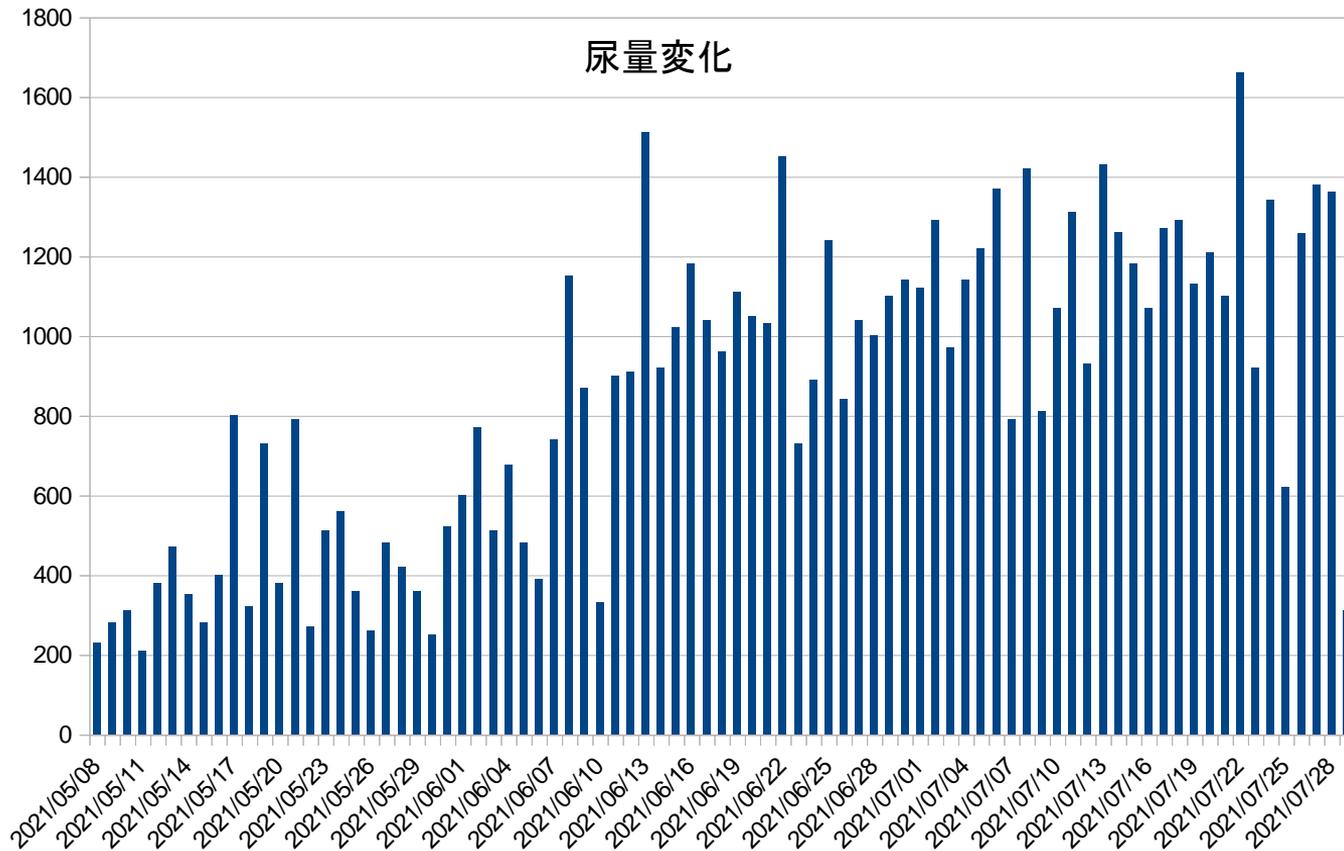
100%





MOTHERTH
MENAMIKASHIWA

尿量変化



施設での生活再建

体力が回復したことで、車いすで自走されるように。
夜間のトイレにも、ご自分で立ち上がってつたえ歩きで。

→ 新たなリスクも発生

たまに、仕事モードになってしまうことも。

『会社はどうなった、海外の状況は』

『今日は打ち合わせがあるんだ、資料はどうなってる』

→ 元気ではありますが、会話が成立しない。





まず気持ちに寄りそうこと。聴くこと。

環境の変化や病状によるご本人の戸惑いを受け止めて、



ひとつひとつ問題の改善を試みる。



多職種連携でご本人らしい生活を構築。

昨日までのやり方に固執することなく、
ご入居者様の「いま」を大切に、
本人の気持ちに追いつく介護を今後もしていきたいと思ひます。